

# 令和 3 年版環境白書 (トピックス)



## ライフスタイル・ビジネススタイルの変革に向けた取組

### 環境配慮型ふじのくにライフスタイル動画「静岡エコライフ劇場」を作成！



新型コロナウイルス感染症拡大を予防するための「新しい生活様式」が浸透する中、環境に配慮したライフスタイルを提案する動画を作成しました。

学生グループ「静岡時代」編集部所属の大学生が、若者の感性を生かして環境に配慮した新たなライフスタイルの構想を作り、その構想をもとに、浜松市出身の若手映像監督である鈴木研一郎氏がシナリオ作成等を行いました。

各回 30 秒程度、7つのエピソードから構成するストーリー仕立ての動画です。環境への関心を高めるために、広く発信しています。



動画はこちら

エピソード1：マスクはどう捨てる？

### プラス・エシカルキャンペーンの実施！



令和2年11月から令和3年2月までの4ヶ月間、人や社会、環境に配慮した消費行動であるエシカル消費の普及・啓発のため、プラス・エシカルキャンペーンを実施しました。

県のエシカル消費啓発サイト「プラス・エシカル」上で、わかりやすい実践例の動画配信や、エシカルを推進する事業者と商品等が集まった「オンラインエシカルフェスタ」を開催しました。併せて、SNSで消費者等からエシカル消費の実践事例を募集し、抽選でフェアトレード&オーガニックコットンのエコバッグをプレゼントするキャンペーンにより、楽しみながらエシカル消費の実践を促しました。



エシカルロゴとチラシ

※エシカルとは…「人や地球環境、社会、地域に配慮した考え方や行動」のこと

### 「テレワーク対応リフォーム補助制度」を創設しました！



新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「新しい生活様式」の定着を図るため、令和2年度にリフォーム工事の一部を補助する「テレワーク対応リフォーム補助制度」を創設しました。補助対象工事としては、テレワークのための机の設置や間仕切り壁の新設、感染予防のための抗菌クロスへの張替え、省エネに資する内窓や断熱材の設置などです。

申請は全体で597件、そのうち、省エネに資する工事は約2割を占めており、省エネ住宅の普及に対して一定の効果を得ることができました。

今後も時代の変化を的確に捉え、豊かなライフスタイルの実現に向けた住宅政策に取り組んでいきます。

制度のチラシとリフォーム例





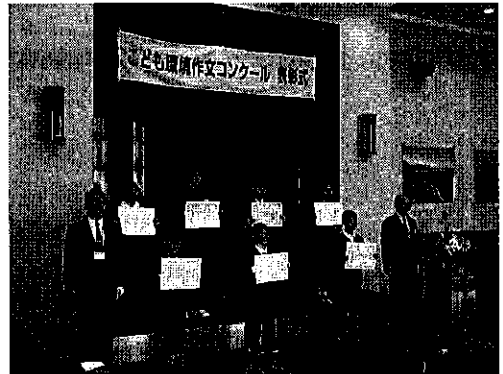
## ライフスタイル・ビジネススタイルの変革に向けた取組

### こども環境作文コンクールを開催！



こども達が、家庭生活や学校での環境に関する学習、体験に基づき、環境保全の意義について自ら考え、実践活動など具体的な行動を起こしていくための意識を育むことを目的として、県内小中学生を対象に「こども環境作文コンクール」を開催しています。

令和2年度は、県内の小学校35校から239作品、中学校43校から697作品、合計78校から936作品の応募がありました。



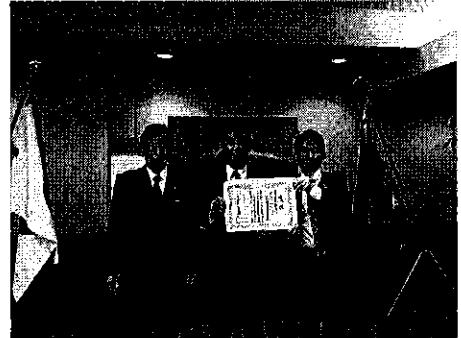
表彰式の様子

### 浜松いわた信用金庫が環境大臣賞を受賞！



浜松いわた信用金庫によるビジネスマッチングの取組が、持続可能な社会の形成に資する金融機関の取組に授与される「21世紀金融行動原則」最優良取組事例（環境大臣賞・地域部門）に選ばれ、令和3年3月に環境大臣より表彰されました。

同金庫のマッチングにより、自社の遮熱塗装を導入した顧客企業にカーボンオフセット証明書を発行している「株式会社丸源竹内組」が、コロナ禍で地元の間伐材を加工した割箸の受注が減少する「NPO法人せきれい（障がい者支援施設）」に、間伐材を使った証明書用額縁を発注。複数の地域課題を解決し、SDGs推進につながる取組として評価されました。



知事を訪問し受賞報告

### 富士市環境ウィークを開催しました！



富士市環境ウィークは、環境問題に対する市民・事業者・行政のパートナーシップによる取組や自主的な環境保全活動の推進を目的として開催し、様々な展示物の掲示や講演会、スポーツ自転車の試乗会等のイベントを実施しました。

一部イベントの様子はWeb上で生中継された他、「Web版富士市環境ウィーク」というホームページを開設する等、新しい生活様式に配慮して開催しました。



講演会、展示の様子



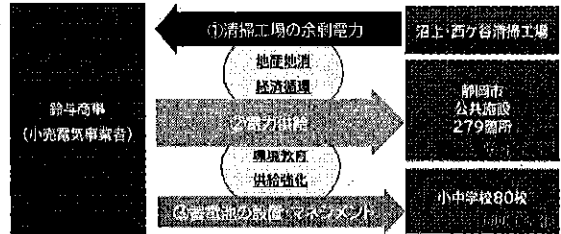
## ライフスタイル・ビジネススタイルの変革に向けた取組

### 静岡市、浜松市が、令和2年度新エネ大賞において新エネルギー財団会長賞（地域共生部門）を受賞

#### 静岡市



静岡市エネルギーの地産地消事業は、清掃工場の発電設備で生じた余剰電力を地域の新電力を介して庁舎、学校施設等の市所有施設（279施設）に供給しています。廃棄物発電からの余剰電力を自治体自ら活用するとともに、小中学校には蓄電池を設置し、電力需給を平準化、非常用電源としても活用可能としています。また、卒FIT電源を買取り、市所有施設に供給する取組みも行っており、全国自治体への広がり期待できると評価され同賞を受賞しました。



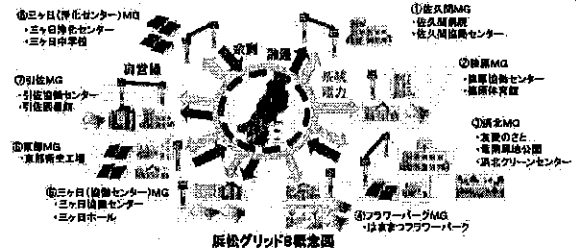
- ①沼上清掃工場・西ヶ谷清掃場の余剰電力を調達し市の余剰発電
- ②静岡市商工が静岡市公共施設279施設に①を含めた電力を供給し市の電力コスト削減メリット
- ③静岡市商工が静岡市の小中学校へ蓄電池を設置し市の防災機能強化、蓄電池利用による効率化

事業スキーム

#### 浜松市



浜松市と（株）シーエナジーは、公共施設8か所に、太陽光発電設備（以下、PV）等を導入、隣接する公共施設を自営線で結び、8つのマイクログリッド（以下、MG）を構成しました。MGには蓄電池も設置し、MG全体をEMS（エネルギーマネジメントシステム）で制御する「浜松グリッド8」を構築。MG内で発生するPV余剰電力も（株）浜松新電力を介して融通することで、PV電力を浜松グリッド8で全て使い切り、CO<sub>2</sub>排出削減に貢献。災害時にもPV、蓄電池を活用することで地域レジリエンス向上を実現しました。



## SDGs 本・物からのメッセージの開催



清水町では「すぐそこ（底）にある深海」をテーマに、「SDGs 本・物からのメッセージ」イベントを約1か月にわたって開催しました。身近な駿河湾の状況を知って、理解し、好きになってもらい、環境問題を自分事として考えるきっかけを作りました。

身近な深海である駿河湾をありのままに展示したアクアリウムでは、陸から流れ着いたごみと生活をする深海生物の様子を展示し、来場者から大きな反響をいただきました。また、エコバックデザインコンテストでは町内の書店と連携し、多くの募集がありました。

最後に石垣幸二氏による深海生物と海洋環境問題の講演会を実施し、深海生物に関するクイズや実際に引き上げたごみ等に触れ楽しみながら学習できる機会となりました。



アクアリウムと講演会の様子



## 低炭素社会に向けた取組

### 2050年ゼロカーボンシティ表明～2050年脱炭素社会の実現を目指して～



脱炭素社会に向けた潮流が加速する中、県では、令和3年2月に、川勝平太知事が「2050年までに温室効果ガスの排出量を吸収量と均衡させて実質ゼロとする、脱炭素社会の実現を目指す」ことを表明しました。県内でも14市※がゼロカーボンシティ表明を行うなど、動きが広がりを見せています。

今後、2030年度を目標年度とする新たな地球温暖化対策実行計画を策定し、省エネの徹底や再生可能エネルギーの導入、ライフスタイルの変革などの取組を強化していきます。

※ゼロカーボンシティ表明自治体（令和3年10月末時点）

御殿場市、浜松市、静岡市、牧之原市、富士宮市、御前崎市、  
藤枝市、焼津市、伊豆の国市、島田市、富士市、磐田市、  
湖西市、裾野市

静岡県知事 川勝 平太 殿

貴県におかれましては、この度、自治体として2050年の脱炭素社会の実現を目指す（ゼロカーボンシティ）を目標とされることを喜ばしく存じます。今後の貴県の発展を祈念して、ぜひ一歩一歩の目標を達成し、脱炭素社会を実現して、後進地として再び日本の発展に貢献し、大いに誇りを持ってください。

貴県、御前崎市は、貴県が誇る「MIRAII」が、ゼロカーボンシティの実現に貢献しています。MIRAIIは、省エネ・省資源の先進的な技術が搭載されています。また、このように先進的な技術が搭載されたMIRAIIは、環境に優しいエネルギーの活用が期待されています。こうした取組は、環境に優しい社会の実現に大きく貢献するものと期待されています。ぜひ、MIRAIIの活用を推進し、環境に優しい社会の実現に貢献してください。

2016年に合意されたパリ協定では「平均気温上昇の幅を2℃未満とする」目標が国際的に定められました。この目標の達成に向けては、貴県は省エネルギーの取り組みにより、地方自治体としての取り組みを推進し、パリ協定の目標達成に貢献し、環境に優しい社会の実現に貢献してください。

環境大臣として、MIRAIIの活用を推進し、環境に優しい社会の実現に貢献し、環境に優しい社会の実現に貢献してください。MIRAIIの活用を推進し、環境に優しい社会の実現に貢献してください。

環境大臣 小泉 進次郎

環境大臣 メッセージ

### 環境に優しく、災害に強い水素エネルギーの普及啓発



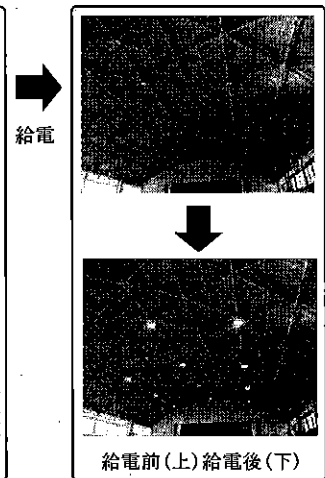
地球温暖化の進行や石油資源の枯渇など、環境・エネルギー問題への対応の切り札のひとつとして、EV（電気自動車）・PHV（プラグインハイブリット車）・FCV（燃料電池自動車）等の次世代自動車が期待されています。また、異常気象や地震等による大規模災害が毎年のように発生する中、災害時の電源確保に役立つ次世代自動車の外部給電機能が注目されています。

令和2年度は、外部電源供給システムが設置された体育館にFCVから給電を行って照明を点灯させ、参加者にFCVが非常時の電源として活用できることをPRしました。

このように、県では環境に優しく、災害時に重宝される次世代自動車の普及促進に取り組んでいます。



MIRAIIからの外部給電



給電前(上) 給電後(下)